

ITS年次レポートの遍歴

(巻頭言～特集)

2019年6月更新

表紙	巻頭言	序章 ITSの潮流	年次版特集
			
			
		<p>新設</p> <p>ITSのこれまでの取り組みを振り返り、IT新改革戦略に掲げた「世界－安全な道路交通社会」の実現に向けた今後のITSプロジェクトのロードマップを「ITSの潮流」として掲載した</p>	
		<p>ITSの変化の要点が的確につかめるように、その年の内容を充実させた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.概説 2.地球温暖化対策とITS 3.海外のITSの状況 4.今後の取り組みの視点 	
	<p>新設</p> <p>従来、「はじめに」として掲載していたものを、ITSの変化をITS Japanからのメッセージとして発信するために、会長による巻頭言として掲載した</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.背景 2.世界の動き 3.ITSを取り巻く環境の変化 4.地球温暖化対策とエネルギー 転換 5.情報ネットワーク型社会の進展 6.モビリティの確保 7.国際活動 8.東日本大震災から学ぶこと 	
	<p>2012年版では、2011年版を踏襲しITSへのメッセージ性を高めて、2013年世界会議を意識したITSの役割について、会長の巻頭言として掲載した</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.産業のグローバル化 2.地域に根ざしたシステム 3.総合的取り組み 	<p>新設</p> <p>2012年版より、従来第7章としていた特集を最初に移動し、年次版特集として、その年次のITSについて特徴的な内容に焦点をあてて解説するように掲載した</p> <p>・2012年版: I. ITS国際連携の発展について II. 地域や産業におけるITSの役割 III. 第20回ITS世界会議東京2013開催に向けて</p>
		<ol style="list-style-type: none"> 1.グローバルなITSの動向 2.ITSを取り巻く技術の進展 3.社会的変化 4.今後の取り組み 	<p>2013年版: I. ITS世界会議 ① ITS世界会議とはこんな会議 ② 第20回ITS世界会議東京2013 II. 新交通物流特別委員会の成果</p>

ITS年次レポートの遍歴 (巻頭言～特集)

2019年6月更新

表紙	巻頭言	序章 ITSの潮流	年次版特集
 <p>2014年版</p>	<p>2014年度の印刷版のコンセプトはそのまま、分冊化を目指した資料篇を「電子版による過去の『日本のITS』の収録」として進めることとした</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ITS 20年の歩み 2. 技術革新と社会環境の変化 3. 次世代ITSプロジェクトの始動 4. ITS世界会議に見る欧米の動き 5. 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした次世代システム実用化 	<ol style="list-style-type: none"> I. 第20回ITS世界会議東京2013が拓く次世代ITS -Open ITS to the Next- I-① 第20回ITS世界会議東京2013開催概要 I-② ITS世界会議20周年記念企画 (欧・米・アジア太平洋3極連携) I-③ ITS GREEN SAFETYの成果 I-④ 地域から始まるオープンITS I-⑤ 国際交流・展開活動<ITSアジア太平洋活動> II. ITSによる未来創造の提言 ～誰でも、どこでも快適に移動できる社会の実現～
 <p>2015年版</p>	<p>2014年度の印刷版のコンセプトはそのまま、分冊化を目指した資料篇を「電子版による過去の『日本のITS』の収録」としてホームページに掲載した</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 我々が直面する課題への対応 3. ITSによる未来創造の提言 4. 地域の担い手が支える次世代のITS 5. ITS Japanの今後の取組み 	<p>・2015年版:</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 自動運転の世界動向 II. SIP-adusにおけるITS Japanの活動
 <p>2016年版</p>	<p>2014年度の印刷版のコンセプトはそのまま、分冊化を目指した資料篇を「電子版による過去の『日本のITS』の収録」としてホームページに掲載した</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 欧州の動向 3. 米国の動向 4. ITS Japan第3期中期計画 5. まとめ 	<p>・2016年版:</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ITS推進に向けた着眼点 2. さまざまな地域の状況とそこで行われている取組みの例 3. 地域のありたい姿とITSとしての取組み 4. ITS推進への期待
 <p>2017年版</p>	<p>2014年度の印刷版のコンセプトはそのまま、分冊化を目指した資料篇を「電子版による過去の『日本のITS』の収録」としてホームページに掲載した。 (佐々木会長として初めての巻頭言)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 世界が注力するITSの主要テーマ 3. 欧州の動向に見るグローバル戦略 4. 産業構造の大革命 5. まとめ 	<p>・2017年版:「ITSによる安全・安心で活力ある社会」の実現を目指して</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ITS Japan第3期中期計画の概要 2. 各テーマへの取組み 3. ITS Japan第3期中期計画から見た世界の動き 4. おわりに
 <p>2018年版</p>	<p>2014年度の印刷版のコンセプトはそのまま、分冊化を目指した資料篇を「電子版による過去の『日本のITS』の収録」としてホームページに掲載した。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーションの連鎖による自動車の発展の歴史 2. ITS:電子・情報技術によるイノベーション 3. 新たな技術革新の波と社会変革 4. 自動運転の実用化の課題 5. 自動運転の実用化による社会的課題解決への期待 6. 欧州の戦略的取組み 7. 産業や社会お構造変化 8. 目指すべき社会 	<p>・Mobility as a Service 「統合的移動サービス」の実現～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Mobility as a Serviceとは 2. Mobility as a Service背景 3. MaaS Allianceによるけん引 4. Mobility as a Serviceの仕組み 5. フィンランドの状況 6. Mobility as a Serviceに関連する論点 7. MaaSの広がり 8. Mobility as a Serviceを支える情報基盤 9. ビックデータの収集と活用事例 10. 情報基盤の事例 11. 情報基盤に求められる要件 12. 統合的移動サービスの実現に向けて 13. 最後に
 <p>2019年版</p>	<p>2014年度の印刷版のコンセプトはそのまま、分冊化を目指した資料篇を「電子版による過去の『日本のITS』の収録」としてホームページに掲載した。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術革新と社会変革 2. 自動運転実用化の課題 3. 統合的移動サービス“MaaS”実用化の課題 4. “Society 5.0”を実現するために 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ITSの変革 2. ITS Japanの役割と取組み 2-1. 災害時情報提供取組み 2-2. 道路空間情報関連の取組み 2-3. ETC民間利用 3. 統合的移動サービスの実現に向けて <p>コラム: 都市交通の革新- -ITS世界会議コペンハーゲンにみる Mobility as a Serviceの進展-</p>